

2021 年度医学部教育支援奨学金 優秀作文

テーマ：コロナ禍での医師の役割について

大屋 健成

「柔」と「剛」双方の立ち回りが求められます。「柔」とは、コロナ禍という、ほとんど経験したことがない事態において次々と生じる新たな問題に対し、知識と経験を駆使し、リーダーシップを持って柔軟に対応することだと言えます。「剛」とは、混乱に流されることなく、COVID-19 以外に医療を必要とする患者さんに確実に医療を届ける力を指します。感染症以外にも継続した医療を必要とする大勢の人に対して、社会の傾向に考えなしについていくのではなく、これまで通りの医療を提供し続けることも必要となります。

国本 十成

コロナ禍において医師に求められるのは、正しい情報を確実に社会に発信する力であると思います。「なぜ会食が極めてリスクの高い行為なのか」「ワクチンはなぜ有効であると言えるのか、なぜみんなが打つ必要があるのか」といったように、「なぜ」の部分掘り下げて説明しなければ人々の理解を得られないし、ルールに従う意味が不明瞭になってしまいます。こうした科学的根拠を説得力ある言葉で社会に伝えられる存在として、医療者は極めて重要な役割を担っているといえるでしょう。最近 SNS で情報発信をする医療者が増え、ネット記事でもコロナをはじめ様々な疾患がトピックとして取り上げられており、一般人でも医学知識を得やすい時代になりました。誰でも発信ができ、情報が溢れる時代だからこそ、間違った情報を訂正するというのも今後は医師の役割となり得るでしょう。目の前の患者さんの病気を治すだけでなく、社会全体を啓蒙し、人々の健康に寄与することが、これからの時代における真のプロフェッショナルリズムであると私は考えます。

銭 映美

医師は患者や社会の利益のために、医療の専門的技能を実践する義務があります。コロナ患者の治療に直接携わる重要性はいうまでもなく、業務上治療に直接携わることができない場合でも、コロナワクチン接種業務を担うなど、公衆衛生の増進に務めることが求められます。さらに、コロナ業務か否かに関わらず、自身が従事する医療の遂行に力を尽くすこともコロナ禍の医療体制の構成員として求められる役割と考えます。また、医師は正しい情報を発信し、正しい行動指針を示す立場にあります。習得した専門性を社会のために駆使し、エビデンスの高い情報を取得して自身が学び続けると同時に、社会へ発信することが重要だと考えます。日常生活においても、医師という専門職に就く責務の一環で、医療専門集団の構成員としての道徳を維持し、市民に対して模範的かつ啓発的な行動をとる必要があると考えます。